

中国笑話集

村山吉廣訳編



訳編者略歴

村山吉廣（むらやま よしひろ）

1929年 埼玉県春日部市に生る

1953年 早稲田大学文学部卒

《現在》 早稲田大学文学部教授

《著書》 『中国の思想』（教養文庫）社会思想社，訳注『孫子』（中国古典文学大系）平凡社，『入門中国古典』早大出版部，『中国の古典詩』早大出版部

《論文》 「姚察恒の学問」「韋応物について」「服部南郭の文筌小言」

《現住所》 東京都町田市玉川学園 3—29—16

〈お願い〉

☆ご愛読ありがとうございました。小社ではみなさまの声を参考に、より良い本を作るよう努力しておりますので、本書の読後感をお聞かせくだされば幸いです。また内容や造本についても、お気づきの点がありましたらご指摘ください。

☆現代教養文庫の定価は、すべてカバーに明記してあります。

☆万一、落丁乱丁の場合は、直接小社にお送りくだされば早速お取替します。

現代教養文庫 767 中国笑話集

© 1972

昭和 47 年 12 月 30 日 初版第1刷発行

昭和 54 年 5 月 30 日 初版第19刷発行

訳 編 者 村 山 吉 廣

発 行 者 小 森 田 一 記

発行所 株式会社 社会思想社

(113) 東京都文京区本郷1の25の21

電話代表 (03) 813—8101

振替東京 6—71812

0139-10767-3033

双文社印刷・小林製本

中 国 笑 話 集

村山吉廣 訳編

まえがき

笑話は広く世界の諸民族に分布している。中国は早くから文明のひらけた国であるが、笑話の歴史もまた古い。その間、語り伝えられたと思われる笑話は後世いくつかの笑話集に編まれたが、それらを集成したのが、明末の文人馮夢竜ふうむりやうの著わした「笑府」十三巻である。

いま、私は、この「笑府」を中心に、その周辺の笑話集の中から、中国民族の生活と文学とを知るに役立つと考えられる話を選択した。

原話はいずれもよくまとめられた話で、そこに見られる中国語独得のテンポを日本語の調子に再現することはなかなか困難なことであった。訳に当たっては先人の訳業のおかげをこうむることが大であったが、原意を損わぬように努めるとともに、話の筋がわかりやすいものとなるよう特別の苦心を払った。

コメントはわずらわしくならないよう心掛けたが、話を知る上で必要なかぎりのもの

を提供しようと試みた。

読者も、読みすすむうちに気づかれると思うが、わが国の江戸小咄や落語は中国笑話から大きな影響を受けている。多くの人によく知られていて、純粹の江戸小咄かと信じられていたものが、実は中国種（ちゆうしゆ）であったとわかるような例が少なくないはずである。そうした意味で、この本は読者にとって、自分の身近なところにある「中国」に着目する機縁となることであろうかと思う。

なお、「笑府」は、わが内閣文庫所蔵の四冊本を原拠として使用した。

題はほとんど原題によったが、必ずしもそうでない場合もある。話の分類と排列は原本を離れてテーマに従って類似のものを大別した。

目次にかかげた愚人譚以下の名称も任意につけたものであり、中に収められた話も決して厳密には統一されていない。このように、ゆるやかに話を散らしてあるので、読者はどこからでも自由に読んでいってよいと思う。

しかし、各譚の内容はおおむね左のようになっている。

愚人譚——落語の与太郎物のもとになった話は多くここに出ている。また、同じく

落語の三人馬鹿の話のように、登場人物がそろいもそろって間が抜けていて、話が

一層おもしろくなっているようなものもある。バカ婿、若旦那、縁氣かつぎ、田舎者なども主要な登場人物である。ピントがはずれていたり、愚直すぎて始末がつかなかったりする人々のユーモラスな話を中心にして集めた。

吝嗇譚——「まんじゅう」（饅頭）は落語「まんじゅう恐い」の原話である。けちな人間の徹底したけちぶりや、それに対抗しようとして相手も精一杯の知恵を働かせる話など、人間離れしているようで、かえって人間味ゆたかな話の数々を収める。

好色譚——「笑府」の分類では、もっぱら、閨風部で取扱われる話。結婚や姦通などをめぐり、好き者のくりひろげる明るくあけっぴろげな風流コント。女色と並んで男色に関するものも少なくない。

腐儒譚——世間知らずのくされ儒者をさかなにした話である。福沢諭吉は儒者を罵って「飯ヲ喰ウ字引」といい、彼らの発言を「乱心もののねごと」と評したが、現代でも、こういう輩は少なくない。「昔能なし、いま評論家」といわれているように、評論家だとか、文化人だとか称する者たちのキザで無責任でデタラメな発言ほど世を毒するものはない。古来こうした学者を腐儒とよぶが、腐儒とはよくも名付けたものだ。しかし、笑話に出てくる学者先生たちは、笑いの対象となるくらいだから、

いまのマスコミ御用の先生方にくらべれば、生活もいじましく、やることも罪のない人々である。

風刺譚—— 社会生活の中で生起する憤懣ふんまんが鬱屈した果に風刺譚が生まれる。風刺の対象としてまず現われるのがヤブ医者。医者なのか人殺しなのかわからぬのがいて（今でもそうであるが）、ずいぶんと人の怨みを買っている。ただし、オッチョコチヨイの医者には実害さえなければ、おもしろい存在である。

つぎに出てくるのが坊さん。この連中は中国では、いつの時代でも、わるがしくてエゲツないものとされている。坊主どものいかさまぶりが痛快に描かれている。なお、坊主のうちには、道教の道士の話も含まれている。

世の中で次にいやなのが役人。彼らは法の番人ではなくて番犬である。汚職をする役人などは、まだ人間らしい。ひからびた法令の亡者みたいになっているのに出会ふとぞっとする。無知な宦官かんがんたちをからかう話もここに入っている。

滑稽譚—— 世間には奇癖の持主が多い。見栄張り、よくばり、うそつき、強情、のんき、短気、恐妻（奇癖に入るかどうかは知らないが）。こうした人々のふりまく笑いには、おのずからなるペースがある。「笑府」では刺俗部、形体部（盲や聾など

人体に関するものをめぐっての話）に属するものが、ここには多い。

以上のように、この本は独自の分類や排列をとっているが、出典については巻末に索引を附したので御利用頂きたい。

なお、本書の企画に際しては、社会思想社の大木さわ子さんがいろいろ力になって下さった。また、資料の蒐集と整理には同学の坂田新君に多大の労を煩わした。

昭和四七年 晩夏

村山 吉 廣

中国笑话集

目

次

まえがき.....三

愚人譚.....一九

李三老.....三三

藥代.....三三

鋤をかくす.....三四

父上は.....三五

風水.....三六

急ぎの用.....三七

馬の雅号.....三七

腹の皮を突き破る.....三八

卵の塩漬.....三九

馬鹿むこ.....四〇

腰掛の足.....四一

氷.....四二

馬鹿の店番.....三三

人参湯.....三三

取越し苦勞.....三四

ころぶ.....三五

掛けぶとん.....三六

貧士.....三七

皇帝さん.....三七

足は観音様のよう.....三八

甘酒.....三九

めす豚の肉.....四〇

節哀酒.....四一

釘抜き.....四二

茶をほめる

四三

大工

四六

代りに打たれる

四四

床屋の小僧

四七

代人

四五

床屋

四八

天を殺す

四五

半値に値切る

四九

団子売り

四六

犬の年

五〇

客 齋 譚

.....五二

金持

五三

塩豆

五九

豆腐

五四

勘定高い

六〇

まんじゅう

五五

水に溺れる

六一

さとうきび

五五

負けずぎらい

六二

酒好き

五五

粗末な月

六三

うすい酒

五七

お世辞上手と卑下自慢

六三

虎を射る

五七

気の長い男

六四

板前

五八

乗馬

六五

蘇の字

六

まぜもの

七

魚の飼い方

六

お見通し

七

卓の上のもの

六

食客三千

六

けちな父子

六

馬をとり換える

七

酒好き

六

半殺し

六

靴下

七

清福

六

綿綢の上衣

七

金の羅漢

九

牛をぬすまれた訴え

七

露のおりた卓

八

かつぐ

七

夢のまた夢

八

椅子に坐れる

七

証文

三

料理人

四

好色譚……………

三

好き者

四

半分

六

もと通り

五

心とからだ

七

犯された時	七	どうすりゃいい	一〇一
漁師の女房	八	子を叱る時は	一〇二
糸瓜	九	子を叱る	一〇三
嫁入り	一〇	雪	一〇四
死体を扇ぐ	一一	接吻	一〇五
下女のおなら	一二	老人	一〇五
仙女	一三	ふたまた	一〇六
代行	一四	ちび	一〇七
枕を使う	一五	大きな足	一〇七
再婚	一六	目玉をくりぬく	一〇八
人造り	一七	巨根	一〇九
靴	一八	小さなへこの	一一〇
薬を塗る	一九	くしゃみ	一一一
米	二〇	婚約	一一二
一夜の宿	二一	儒者の娘	一一三
夢	二二	着物をぬぐ	一一三

硬くなる

二四

紬の服

二三

乳のできもの

二五

陰間の結婚

一三

和尚の女郎買い

二六

夫の夫

一三

陽物論

二七

野ざらし

一四

蛇を取る

二八

精進落し

一六

突きぬけたア

二九

香袋

一六

痛い

三〇

船に乗せてもらった坊さん

一七

天の報い

三〇

大事なところ

一八

腐儒譚

.....一九

川の子

三〇

万さん

一五

教え方

三一

江心の賦

一六

屎の字

三一

読書の人

一六

文字の学

三三

死にまちがい

一八

字知らず

三四

新しい裙

二〇

昼寝

一四二

道学者たがいに罵しる

一四五

本の効用

一四三

余姚の先生

一四七

書物が低い

一四三

余姚の先生

一四八

腹中まったく無し

一四四

猫とねずみ

一五〇

風刺譚

.....一五一

土地の神

一五三

僧の脈

一六〇

足で蹴って下され

一五三

名医

一六一

自信

一五四

精進料理が苦手

一六三

熱病

一五五

強盗の頭

一六三

葬式を請合う

一五五

えび

一六三

補償

一五五

坐禅の効用

一六四

水練

一五七

禿の字

一六五

耳に当たった矢

一五八

魔除け

一六五

難経

一五九

蚊除けのお符

一六六